ショウちゃんとめぐる

ぶらり昭和区MAP

～滝川・伊勝～

名古屋市昭和区役所

滝川・伊勝エリアって？ ～そのあらまし～

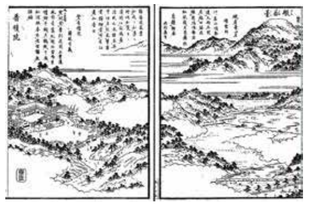
昭和区の東部に位置するこの地域は、起伏にとんだ丘陵地帯で、緑豊かな自然に恵まれた閑静な住宅地が広がっています。

近年急速に再開発による都市化が進み、戸建て住宅のほか高層マンションも立ち並び、「住みたい街」の一つにも挙げられています。地域内には南山大学や中京大学、高校・専門学校などもあり、地域の北部には名古屋大学（千種区）があり、学生を中心とする若者を多く見かけます。おしゃれなカフェやレストランも点在し、活気ある街を形成しています。地下鉄名城線と鶴舞線が交わる八事駅などもあり、名古屋の都心にアクセスしやすいのも魅力の一つです。

近代的な街の中に、多くの史跡が点在し、伊勝八幡宮や香積院、浄昇寺など地域から厚い信仰を受けている寺社も多くあります。また、聖霊修道院や神言神学院などキリスト教関係の施設も多くあります。

なお、「滝川」は織田信長の家臣である滝川豊後守の領地があったことから由来しています。一方、「伊勝」は一説によると、「井渇」「井河津」などから現在の地名になったと云われています。

また、坂が多く自転車で回ると大変ですが、歩いて散策すると新しい発見がたくさんあります。歴史と自然、そして若者文化を体感しつつ、街を歩いてみましょう。



江戸時代の香積院、般若臺附近の様子
（「尾張名所図会」より）

こんにちは！ ぼくは昭和区のマスコットショウちゃんです。このマップで、ぼくと一緒に「滝川」、「伊勝」の魅力を発見しよう！

まちあるきコラム 地層と道、ふたつの学区の地形を学ぼう

A 昭和区の地形と八事層の地層

名古屋は東高西低の地形で、東に行くほど古い地層です。山崎川の西には御器所台地があり、その地層は熱田層（15～6万年前）です。地上で見られる部分はその上半部で、ほとんどが黄色みを帯びた砂層です。

山崎川の東にはさらに古い八事層（約100万年前）が上位にあります。そのほとんどが10cm以下のチャート礫（直径2mm以上の石）からなる層で、全体の概観はオレンジ色をしています。八事層は、八事丘陵全体を形作っている地層で、八事を中心にかなりの地域で露出した地層を観察することができます。

八事層の地層 山里町・般若臺付近

※チャートは、石英質の成分をもつ放散虫などの殻や骨片が海底に堆積して固まった岩石です。

B 八事交差点界隈

飯田街道（国道153号）と山手グリーンロードが交わる交差点です。その交差点の下には地下鉄八事駅があり、飯田街道沿いの鶴舞線と、グリーンロード沿いの名城線が交差して、乗換駅となっています。近隣には中京大学や名城大学、八事山興正寺、八事霊園などがあり、霊園が近いせいか石屋さんも目立ちます。またイオン八事店や多数の飲食店が交差点付近に集中しています。通勤通学時間帯には学生が、昼間は買い物客が、そして興正寺の縁日（毎月5、13、21日）では多くの方で特に賑わっています。

交差点界隈の歴史を振りかえってみますと、その昔、江戸時代頃から、八事一帯は山遊びの名所だったようです。明治45年（1912）に民営の路面電車（通称：八事電車）が古井村（吹上の西）から八事まで開通しました。同時に鉄道会社は集客のために「八事遊園地」も造りました。

また、大正3年（1914）の八事霊園、翌4年（1915）の八事斎場の開設に併せて、八事駅から霊園前（東八事駅）までの墓地線が開通しています。この墓地線を走っていたのは、柩を運ぶ霊柩電車でした。中央に柩を置き、前後の席に参列者が乗り込む貸し切り電車だったようです。

昭和12年（1937）、八事電車は市営化されます。その後は沿線住民の足として親しまれますが、自家用車の普及にはあらがえず、昭和46年に路面電車は廃止になります。

代わって昭和52年に地下鉄鶴舞線が伏見～八事間で開通しました。さらに平成16年には名城線の名古屋大学～八事～新瑞橋間が開通し、現在に至っています。

吉田初三郎『観光の名古屋市とその附近』
名古屋市博物館所蔵

霊柩電車のイラスト
（「一柳葬具総本店創業百年史」より）

現在の八事交差点付近

まちあるきコラム 豊かな緑に包まれた祈りの場所、学びの場所。

C 聖霊奉侍布教修道女会（聖霊会）

八事の一角に高い塔のある修道院があります。聖霊奉侍布教修道女会（聖霊会）の日本管区本部です。ドイツ人アーノルド・ヤンセン神父によって1889年にオランダで創立され、明治41年（1908）に来日し、教育・医療・社会福祉の分野で活動しています。南山学園の設置母体である神言会も同じ創立者で兄弟会です。

修道院の中は見学できませんが、聖堂での日曜礼拝や庭にあるラビリンスで、歩く瞑想の祈りの集いへの参加ができます。

D 社会福祉法人 聖霊会 聖霊病院

聖霊病院は東海唯一のカトリック医療機関として昭和20年（1945）10月に創立されました。「愛と奉仕」を理念に地域住民の皆さんの期待する医療に応えるために、すべての職員が慈しみの心を持って地域医療を支えるハブ病院としての機能を十分に発揮できるよう、一人ひとりを大切にする医療を提供しています。

紹介状なしでも受診できる「かかりつけ病院」として安心の医療を提供し、地域の方々の健康を守っています。

E 神言神学院

南山大学の北東部に鉢を伏せたようなシンボル塔が特徴の建物があります。全体がテラコッタ色（赤土色）を基調としたコンクリートむき出しの作りになっており、印象的です。ここが神言神学院で、南山大学の設立母体である神言修道会が直接管理経営するカトリック系の宣教師（男子）を養成する学校です。世界中から神学生が集まり、共同生活をしながら、神学の勉強をしています。

この建物は、アントニン・レーモンドの設計としても有名です。

F 南山大学人類学博物館

南山大学の正門をくぐると、左手の建物の地下に「人類学博物館」があります。もともと人類学民族学研究所の陳列室として出発し、昭和54年に博物館として一般公開しました。展示内容は、考古学資料、民族誌資料、現代生活資料と広範囲にわたっています。

最大の特徴は、資料のほとんどが展示ケースの中ではなく、直接手に取って触ることができることです。本物の資料の多くに触れられる博物館は、とても珍しいのではないでしょうか。

- 入館料：無料
- 開館時間：10:00～16:30
- 休館日：日曜、大学の事務休日、毎月最終水曜13:00以降
  大学入試期間

（南山大学人類学博物館内所蔵）

G 中京大学 名古屋キャンパス

中京大学は、昭和31年に商学部のみで開学し、現在は10学部ある私立大学です。ここ名古屋キャンパスは、法学部ほか8学部あり、豊田市にあるキャンパスには、スポーツ科学部ほか2学部あり、複数のオリンピック代表選手が輩出されています。

名古屋キャンパスは、興正寺公園に隣接し緑豊かな場所にありながら、市営地下鉄鶴舞線・名城線の八事駅に直結しており、交通利便性が高いという好立地にあります。

H 川名中学校の桜並木

昭和22年の開校を記念して、100本近くの桜が周囲に植えられました。現在、50～60本の桜が大木となっています。春には満開の桜が人々の目を和ましています。在校生・卒業生にとっては、自慢の桜並木でしょう。

I センバツ発祥の地

大正11年（1922）に、運動具店を営む山本権十郎が私費を投じて「山本球場」を建設しました。収容人数2,000人という、名古屋では初の本格的な野球場で、大正13年（1924）4月「第一回全国中等学校選抜野球大会」（現・選抜高等学校野球大会）が開催されました。参加は8校、優勝は香川県の高松商業でした。翌年から会場を甲子園に変更し、現在に至っています。

戦後、国鉄（現・JR東海）の練習球場として使用されましたが、老朽化が進み平成2年閉鎖、撤去されました。跡地にボールとバットをデザインしたモニュメントや歴代優勝校の校名を刻した銘板が設置されています。

まちあるきコラム ゆったりほっこりと、ちょっと不思議なまちのポイント

J ガーデンカフェ やっちゃんち

「ガーデンカフェ　やっちゃんち」は、令和元年6月8日で、6年目を迎えました。興正寺の裏（北側）の緑に囲まれた、閑静な住宅街にあるカフェです。やっちゃんのいれるコーヒーやカフェラテは、皆さんに人気です。赤ちゃんから高齢の方まで、ゆったりと過ごすことができる雰囲気を醸し出しています。

こちらでは、歌声サロン、折り紙教室、新聞ちぎり絵サロン等を開催しており、誰でも参加できます。ウッドデッキから、庭の緑の木やかわいい花を見ながら、ゆったりとした時間を過ごせます。

- 営業時間：8:00～16:00
- 定休日：第1、第3土・日

K 東山タワー（中京テレビ鉄塔）

中京テレビ旧社屋敷地内に建つ鉄塔で、昭和44年中京テレビ開局に合わせて建設され、平成23年の完全地上デジタルテレビ放送化までは、UHFアナログテレビ放送を送信していました。現在も、FMラジオの送信やNTTドコモの中継などに使用しています。

高さ162mで、標高65mに建設されており、市の中心部にある名古屋テレビ塔より高くなっています。平成28年に社屋は移転しましたが、鉄塔はしばらく残ることとなっています。

昭和区に伝わる昔話

昭和区には、いくつかの昔話や伝説が今も伝えられています。どこかユーモラスだったり、ちょっと心がほっこりしたり。そんな、人々の暮らしに根ざした昔話を紹介します。

隠れ手ぬぐい（伊勝）

昔、ある村においじいさんがいました。村にはよくタヌキが出て、人を化かしていましたが、そのおじいさんは「おれは、タヌキに一度も化かされたことがない」と自慢していました。

ある日、おじいさんは握り飯を腰にぶらさげて、山へ薪を取りに出かけました。その途中、一匹のタヌキが松の木の陰にいるのを見ました。「何をしているのかなあ」とよく見ると、手ぬぐいのようなものをかぶり、しっぽをクルクルとまわして、きれいな娘に化けていました。

おじいさんは何も知らないふりをして横を歩いていくと、その娘がそばにきて、「おじいさん」と呼びとめました。そして、「私は、山向こうの村の娘です。あちらの村の親戚へお使いに行くところです」と言いました。娘の正体を知っているおじいさんは、痛い目にあわせてやろうと思い、「おい、そのしっぽはなんだ」と言いました。タヌキはあわてて自分の後ろを見ましたが、しっぽなんて出ていません。「お前の正体は知っているぞ」とおじいさんが言うと、娘は「悔しい」と言いながら、タヌキに戻りました。

おじいさんは、「わしはタヌキに騙されたことがないぞ」と自慢しました。タヌキは、「運が悪かったです。私はお腹がすいているのです。何か食べるものはありませんか」と言いました。おじいさんは気の毒に思い、自分の握り飯をわけてやりました。

すると、タヌキはお礼に古ぼけた手ぬぐいを差し出しました。「これはなんだ」と尋ねると、タヌキはその手ぬぐいを頭に乗せて「一、二、三」と小声で数えると、すーっと消えたではありませんか。おじいさんがうろうろしていると、タヌキが姿を現し、その手ぬぐいを「姿の消える手ぬぐいだ」と言って、渡してくれました。

おじいさんは手ぬぐいで隠れる術を試してみたくて、薪のことなんて忘れて、家に飛んで帰りました。そして、頭に手ぬぐいを乗せて、小声で「一、二、三」と数えました。「これでわしの姿は誰にも見えないぞ」と思い、野良仕事をしている村人の横を悠々と歩いていくと、隣りの若者が一服して握り飯を食べていました。おじいさんは驚かせてやろうと思い、手を伸ばして握り飯をつかむと、パクッとほおばりました。その途端、「こら、何をする！」と若者は言って、おじいさんのほうを振り向きました。

「お前さん、どうしたんだい」と言われ、自分の姿は見えないと思っていたおじいさんは、びっくりするやら、恥ずかしいやら。あわてて家に逃げ帰りました。

その話を聞いた村人たちは、「あのおじいさんもタヌキに化かされたぞ」と笑い合ったそうです。

参考資料：昭和区の昔話と伝説をたずねて」

満願の朝（滝川）

八事の興正寺から北東へ10町ぐらい行くと、妙見堂があります。川名山妙見堂と言いますが、浄昇寺と言ったほうが分かりやすいでしょう。

昔、ここからちょっと西手を川名村と言っていましたが、そこに鈴木文七という人が住んでいました。文七は、何が原因か、若い頃に目を患って見えなくなってしまいました。

ある日、文七は太鼓みたいなものをテン、テンテンと叩いて歩く人の足音を聞きました。「南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経…」と唱えながら歩く、日蓮宗の人たちでした。文七が付いて行くと、あるお寺でひとしきり、「南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経」と唱えています。そこで、文七は信者の一人に、「法華経はあなた方の生活の中に、どういうふうに入っているんですか」と尋ねました。

「法華経六万九千三百八十四の一つひとつの文字ことごとく、そのお経の全体の心につながっております。従って、南無妙法蓮華経と唱えることによって、仏教のすべてを受け取ることになるのです。まことと受け取って、信じることですよ。疑ってはいけません。信じて唱えれば、あなたの気持ちも素直になり、仏様のお力できっと病も治していただけますよ」

「ありがたいことで」と、文七はその場で日蓮宗の信者になりました。

文七は、身延山に出かけて何日も「南無妙法蓮華経」と唱えて、行場の滝（富士見町下）に打たれて荒行を続けました。「どうか不自由な目が元通りになりますように」と、心を込めて両手を合わせました。

満願の百日目の朝。文七は、「今日こそ、お願いいたします」と滝へ行き、静かに水に打たれていました。山から朝日が昇る時刻が迫っていました。それを体で感じていると、文七の前に一人の旅の僧が現れました。そして、「文七どの、よくぞ百日間の行をなさった。上人様はあなたの願いを必ず聞いてくださるであろう。うちに戻ったら、摂津国能勢の妙見大菩薩の分身をいただくがよい」と言いました。

文七がえっと思ったとき、朝日の光が木々の間からもれてきました。その瞬間、文七は「あっ」と叫びました。目が見えたのです。

家へ戻った文七は、僧が言ったとおり、摂津国へ行って妙見大菩薩の分身をいただいて帰り、興正寺の少し向こうにお堂を建てて「妙見堂」としました。やがて、「妙見堂は目の病を治してくださる」というわさが広まり、たくさんの人がお参りにくるようになりました。

山手グリーンロード

本山交差点（千種区）から四谷通、山手通、八事交差点、瑞穂運動場を経て熱田神宮外苑に至る道路で、山手通にちなむ愛称は全線を通して使われています。緩やかなカーブと起伏に富んでいて、沿道には由緒ある寺社や大学が点在し、しゃれたマンションや住宅が建ち並んでいます。

街路樹にトウカエデ、シラカシ、ハナミズキなど、植え込みにアベリア、シャリンバイなどが植栽され、新緑や紅葉の季節は快適な散策が楽しめます。

ショウちゃんとめぐる ぶらり昭和区MAP ～滝川・伊勝～

製作：「ぶらり昭和区MAP」製作委員会
桜花学園高等学校インターアクトクラブ
昭和区案内人クラブ
昭和鯱城会
八事・杁中歴史研究会

昭和区まち歩きアプリ「SHOW MAP」
ダウンロードはこちらから
https://nkc-showmap.com/

発行：名古屋市昭和区役所
TEL 052-735-3822　FAX 052-735-3829
2020.3　10,000部